

江戸教育思想史研究

前田勉著 [二〇一六年一〇月刊行予定]

▼ A5判・六〇〇頁／定価：本体九、五〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1866-0

エリート教育か／藩士全体の教養の底上げか。教師による講釈か／自由闊達な議論を認める集団読書（会読）か――

学問が出世に結びつかない身分制社会の近世日本において、ようやくつくられはじめた学校はさまざまに展開する可能性があつた。学ぶ理由が明確でないなかで、学校はいかに生まれ、人々はそれになにを求めたのか。学習の方法、教育の目的に注目することで、官学／私塾／儒学／国学／蘭学といった枠組みを超えて、一七世紀から明治初期までを見通し、江戸教育思想史に新たな地平を拓く意欲作。

◎予定内容目次◎

序章 江戸教育思想史序説
第一章 林家三代の学問・教育論
林家塾の「教方」／博覽強記の学問／講釈と門生講会／五科十等の制／私塾／教育／「物知り」批判／「いがた」による庶民文化／庶民文化の学校／武士の教育機関としての学校／「同志」との議論講習／庶民文化と武士教育

第二章 江戸前期の学校構想－山鹿素行と熊沢蕃山との対比－
「物知り」批判／「いがた」による庶民文化／庶民文化の学校／武士の教育機関としての学校／「同志」との議論講習／庶民文化と武士教育

第三章 山鹿素行における士道論の展開
士道論の研究史上的問題／『甲陽軍鑑』／『武教全書』の軍隊統制法／朱子『小学』と『武教小学』／武士道と職分／封建官僚の士道論

第四章 貝原益軒における学問と家業
学問と家業の並列／家業における勤労精神／学問の「榮」／不朽への意志

第一編 学校構想と家訓

第二編 第一章 江戸教育思想史序説

近世と近代の連続／断絶／「教育」と学校／國家有用の英才「教育」／子弟「教育」／二つの教化／学びの学問／講釈と講談／江戸教育思想史の歴史内在的課題

第三編 第一章 江戸派国学と平田篤胤

第一章 平田篤胤の講釈／『伊吹向呂志』を中心にして――
会読の場での論争／語釈の問題／「日本魂」の問題／平田篤胤のスタンス／理性と信仰

第四編 第二章 吉田松陰における読書と政治

横議横行の先駆者／松陰の会読体験／「語」の発見／朋党／読書から政治の場への転換

第五編 第三章 長州藩明倫館の藩校教育の展開

創設期と重建期との関連／創設期の風俗教化の目的／創建期の人材教育的目的／風俗教化と人材教育の間／重建期の人材教育への特化／会読における実力と平等／会読の政治討論の場への転換／藩校と私塾の対立形式の再考

第六編 第四章 加賀藩明倫堂の学制改革－会読に着目して－

人格修養の場としての会読／第一期の学制改革／第二期の学制改革／第三期の学制改革／平等化の工夫／試験制度の試行錯誤／学校と人材登用

第七編 第五章 明治前期の「学制」と会読

会読と寛容精神／「学制」の教育理念と輪講／郷学の輪講／郷学と学制／小学校／輪講の廃止／会読・輪講廃止の理由

第二編 儒学の学習法と教育・教化

第一章 太宰春台の学問と会読
徂徠の会読奨励／春台の社会観・人間観／学問の法則／会読の規則／衆議」と決断／私的空间の学問

第二章 一八世紀の文人社会と学校
彦根藩の文人サロン／会読の三つの原理／藩校建設の是非論争

第三章 細井平洲における教育と政治
「公論」と「他人」に注目して――

「公論」形成の場／「他人の交り」／「相身互い」い／「家国の安危」の「公論」／庶民教化と講釈／「他人と他人との附合」の先駆

第四章 寛政正学派の「中庸」注釈
昌平坂学問所の学制改革と会読／四書注釈の基本的立場／注釈の方法／注釈内容の特徴／注釈と会読

第五章 細井平洲における教育と政治
「公論」と「他人」に注目して――

「公論」形成の場／「他人の交り」／「相身互い」い／「家国の安危」の「公論」／庶民教化と講釈／「他人と他人との附合」の先駆

第六章 終章
初出一覧／あとがき／江戸教育史年表／索引

終

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

（京都 取引コード 3402）

冊 数	冊	江戸教育思想史研究 本体9,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1866-0
お 名 前	tel e-mail		
ご 住 所	〒		
送本方法	代 引（書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎		



本書HPのQRコード